

## マレットフィンガー（ハンマー指）Mallet finger

マレットフィンガーは、野球・バレーボールなどの競技中、突き指という形で発生するものが多く、日常しばしば見られる外傷の一つである。ベースボールフィンガー baseball finger やドロップフィンガー drop finger、ハンマー指や槌指とも呼ばれる。大部分は受傷後、早期に適切な処置を施せば保存的に治癒するものであるが、放置すると永続的な機能障害（DIP関節伸展障害）を残す為注意を要する外傷である。

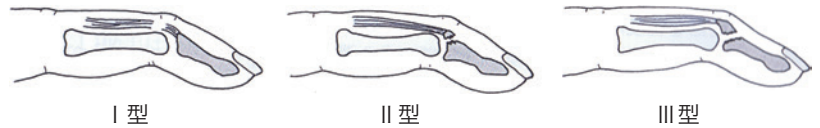
**末節骨基部背側に終止腱が付着している為DIP関節の屈曲強制により指伸筋腱がその末端付近で断裂を起したり、腱性部で断裂せずに付着部の裂離骨折を起こし、マレットフィンガー変形を呈する。**

### ■分類

I型：終止腱の断裂

II型：終止腱の停止部での裂離骨折

III型：末節骨の背側関節面を含む骨折



### ■症状

DIP関節の腫脹・疼痛・伸展障害。**II型・III型に比べI型は伸展障害が強く出現する。**

**I型・II型は屈曲強制で損傷した場合に、III型は伸展強制で損傷した場合で発生する。**

### ■治療法

マレットフィンガーのうちI型・II型は終止腱を弛緩させた肢位でPIP関節を屈曲位、DIP関節を過伸展位に固定する保存療法が一般に行われており、この固定療法で十分に治癒する。

III型で骨折部の安定性が良好な場合は、保存的にPIP関節屈曲位、DIP関節伸展位で固定する。III型で骨片に含まれる関節面が1/3以上を占めると脱臼骨折の型となり、DIP関節を過伸展位にすると、逆に骨片が関節面から背側に押し出され、かえって転位の増悪をまねく。したがって疼痛と運動制限が大きくなり観血療法の適応となる事が多い。

固定材料としては、ギプス副子などによる固定が色々あるが、肢位に適合した副子を作り、苦痛のない方法で固定する。

### ■骨片転位があるものの整復法

患肢の中節部遠位を母指と示指で強くはさみ、両指を末梢に滑らせながら、母指で骨片を圧迫、示指で末節部を過伸展して整復する。

### ■固定法

MP関節軽度屈曲、PIP関節90°屈曲、DIP関節を過伸展位で固定。

**II型・III型では5～6週間の固定、I型では6～8週間の固定。**

### ■後療法

自動運動、温熱療法などの理学療法の施行をする。